

やまと 民俗への招待

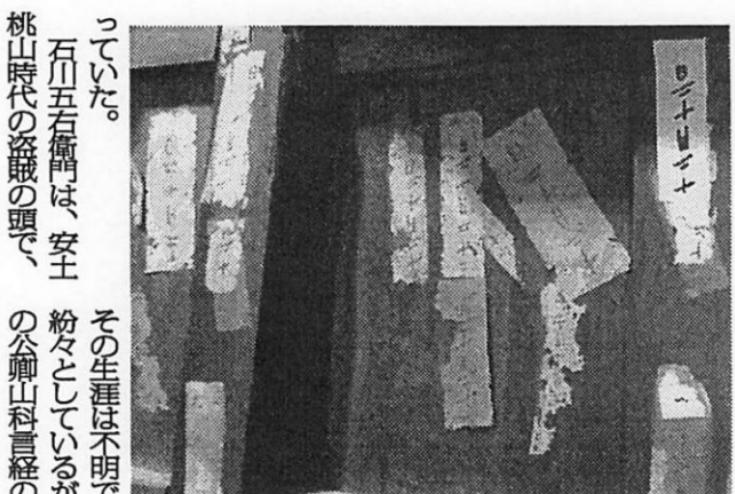
鹿谷 熟

「十一月十二日」と書いた小さな紙切れが、上下を逆さまにして唐先の柱に貼り付けてある。1978(昭和53)年11月太鼓踊りを見に奈良市の大柳生に行つた時のことだ。「これなんですか」と聞くと、泥棒除けで、12月12日は、石川五右衛門が金のでにされた日だという。

氣をつけると次第に他所でも見かけるようになる。奈良市、東大阪市、大和郡山市、枚井市と増え、新聞で葛城市でも行っていることを知った。出入り口や窓など何枚も貼る所もある。奈良市内の老舗旅館、菊水楼の裏口の鉄の扉をふと見る

泥棒除けのまじない札

と、片隅に12月12日と書いた小さな紙が、逆さまに何枚も貼り重ねである。ちょうど年配の女人が出てきたので尋ねると、毎年12月12日の夜12時に、12歳の男の子が貼るのがいいのだという。その後、この旅館を利用した時に見ると、玄関や建物内部にも所々貼ってあつた。由緒ある旅館がこうしたおまじないをしていふことがうれしくなつた。大和郡山市の春岳院では、この日に祈とうをして、「十一月十二日水」と書いたお札を櫻家に配つていた。



ある工作場の扉裏に貼られた12月12日のお札
=大和郡山市で、筆者提供

日本に滞在していたスペインの貿易商人アビラ・ヒロンが書いた『日本王國記』などから、1594(文禄3)年に京都の三条河原でその子とともに油の張った釜で煮殺された実在の人物だった。ところが金のでにされた安藤秀吉ではなく、12月12日ではなく、8月23日だった。空前の極刑に処せられたことや、時の最大の権力者豊臣秀吉に反抗したらしくことから、五右衛門は伝説化され、淨瑠璃や歌舞伎の世界で語り継がれ、庶民にその像が伝わった。その大盗賊石川五右衛門を引き合いに出して、泥棒除けの呪い札になぜ「十一月十二日」と書くのだろうか。一年で最後の12月は、正月準備が始まる月で、13日は「事始め」で、松迎えや煤掃きが行われた。20日は「鬼ての二十日」と呼ばれ、この日伯母峯崎を越えると一本タタラという妖怪が出るとされた。

札を逆さまにすることには、その事象を否定することだが、12月12日にどんな意味が隠されているのか、謎のままだ。(奈良民俗文化研究所代表)

表)

|| 次回は1月16日